



しん がた
新型コロナワクチン



スパイクバックスを 接種される お子さまと保護者の方へ

監修

森岡一朗先生

日本大学医学部 小児科学系 小児科学分野 主任教授



たいしょう
対象
ねん
年齢

せい こ か げつ
生後6ヵ月～11歳

本冊子では、「スパイクバックス筋注シリンジ6ヵ月～11歳用」を本ワクチンと言います。

医療機関名

COVID-19や本ワクチン接種後の注意点などは、
モデルナ新型コロナワクチン被接種者向け情報サイトで確認できます。
URL <https://products.modernatx.com/jp/spikevax>

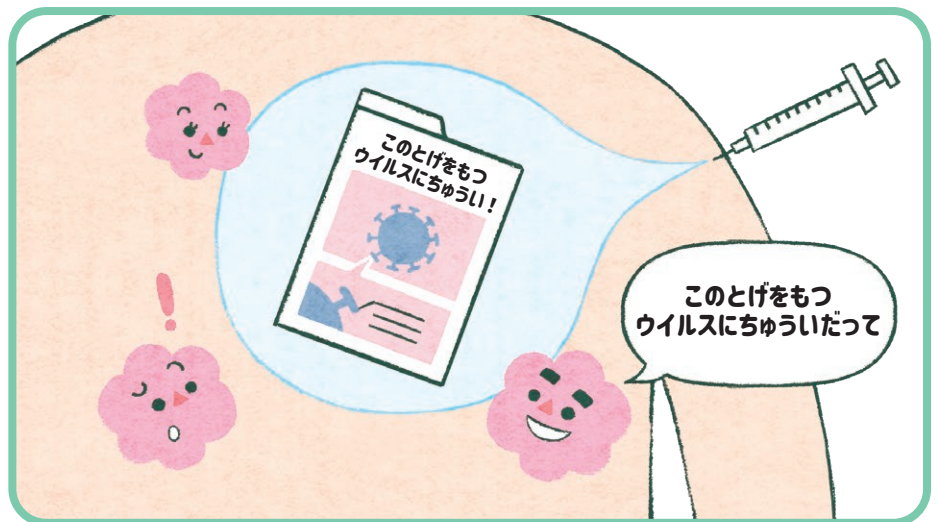


ワクチン接種を受ける5~11歳のみなさんへ

新型コロナワクチンって、 どんなワクチン？

新型コロナワクチンをなぜ受けるの？

人の体のなかに新型コロナウイルスが入りこみ仲間がふえると、
熱、だるさ、せき、息苦しさ、頭の痛み、
味覚の変化などがおきて、体の調子が悪くなります。



新型コロナワクチンを受けることで、
体のなかで新型コロナウイルスとたたかう
用意ができるので、ウイルスが体に入っても新型コロナウイルス感染症にかかりにくくなります。

もしかかっても、新型コロナウイルス感染症の
症状が重くなることが少なくなります。

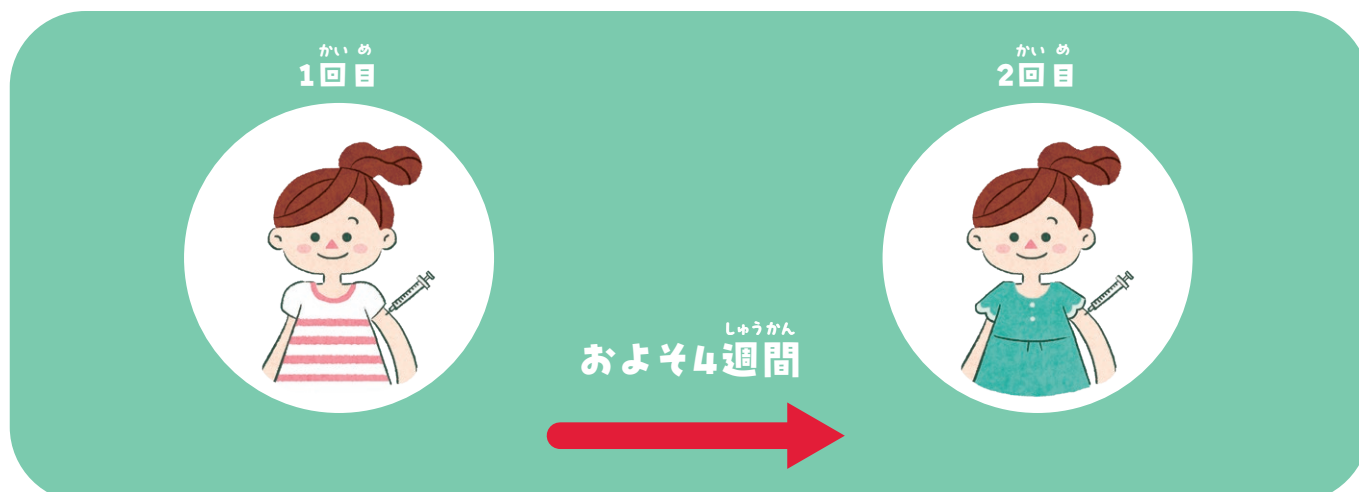


つぎ う あいだ
次のワクチンを受けるまでどのくらい間をあけるの？

ぜん かい しん がた せつ しゅ すく か げつ た
前回の新型コロナワクチンの接種から少なくとも3カ月経ったら
つぎ う
次のワクチンを受けることができます。



しん がた う
はじめて新型コロナワクチンを受けるみなさんは、
かい め ほん う あと しゅう かん
1回目に本ワクチンを受けた後、およそ4週間あけて
かい め う
2回目のワクチンを受けることができます。



ワクチン接種を受ける5～11歳のみなさんへ

新型コロナワクチンを受けるとき、 どんなことに気をつければいいの？

新型コロナワクチンを受ける前に気をつけること



37.5℃以上の熱があると、
このワクチンを受けることができません※。
体の調子がいつもとちがうと感じたら、
お母さんやお父さん、
周りの大人の人にならず伝えましょう。

※ 熱が37.5℃以上なくても、普段の体温が低い人は、熱があると判断されることがあります。

しん がた
新型コロナワクチンを受けた後に守ってほしいこと

ワクチンを受けた後、次の3つのことに気をつけましょう。

1 ゆっくり待つ

ワクチンを受けた後は
15～30分くらいイスにすわって
ゆっくり待ちましょう。
気になることがあれば、
周りの大人の人に伝えましょう。



2 注射したところを
さわらない

注射したところをさわったり、
こすったりしないようにしましょう。
お風呂には入れますが、
ゴシゴシ洗わないように気をつけましょう。



3 ゆっくり過ごす

注射した日にあばれたり、
はげしい運動はしないようにしましょう。
体の調子がいつもとちがうと感じたら、
周りの大人の人に伝えましょう。



ワクチン接種を受ける5～11歳のみなさんへ

新型コロナワクチンを受けた後、 どんな症状に気をつければいいの？

ワクチンを受けた後、でるかもしれない症状

ワクチンを受けると、
全員ではありませんが、熱やだるさ、
うでの痛みなどの
症状がでることがあります。

ワクチンを受けた後
すぐにでる症状と、後からでる症状があります。

ときどき重い症状がでることもあります。

具合が悪くなったり、
体調がいつもとちがうと感じたら、
お母さんやお父さん、
周りの大人の人にならず伝えましょう。

ワクチンを受けた後すぐ～30分以内にでるかもしれない症状(アナフィラキシー)

☐ 気持ち悪い、吐き気がする

☐ 手足がつめたい

☐ ひふがかゆい、赤い、ブツブツがでる

☐ フラフラする、力が入らない

☐ のどがかゆい、息がしにくい



ワクチンを受けた後30分以内に症状がでることが多いですが、
受けてすぐにでることもあります。

注射した後はすぐに帰らずに、ワクチンを受けた病院などで
しばらくゆっくりしましょう。

30分よりも後にこのような症状がでることもあります。

ワクチン接種を受ける5～11歳のみなさんへ

ワクチンを受けた日の後に でるかもしれない症状(心筋炎、心膜炎)

☐ むねがドキドキする、ズキズキする

☐ 手や足、顔がぷっくりする

☐ 体が重い

☐ 息がハアハアする、ゼエゼエする



いつもとちがうと感じたら、すぐにお母さんやお父さん、
周りの大人の人に伝えましょう。

ワクチンを受けた日の後にでるかもしれない
注射したところにみられる症状

注射したところが

- ☐ はれる
- ☐ 痛い
- ☐ 赤くなる
- ☐ かたくなる



このような症状は、ワクチンを受けた後
1～2日以内にでることが多く、3日くらい続きます。

ワクチンを受けた日の後にでるかもしれない体の症状

- ☐ 熱がでる
- ☐ 頭が痛い
- ☐ だるい
- ☐ つかれる
- ☐ 関節が痛い
- ☐ 気持ち悪い、
吐き気がする
- ☐ ゾクゾクする



このような症状は、ワクチンを受けた後
1～2日以内にでることが多く、2～3日くらい続きます。

ワクチン接種を受ける5～11歳のみなさんへ

新型コロナワクチンを受けた後、 気をつけることは？

新型コロナワクチンを受けた後も感染しないように予防しましょう

新型コロナワクチンを受けることで、

新型コロナウイルス感染症にかかりにくくなります。

しかし、ウイルスが体に入ってこなくなるというわけではありません。

このワクチンを受けた後も、いままでと同じように注意しましょう。



て
手あらい



うがい



マスク※



たいちょう やる
体調が悪いときは
でかけない

※ マスクについては、お母さんやお父さんと話し合って決めましょう。

ちゅうい
3つの「みつ」にも注意しましょう

みっせつ



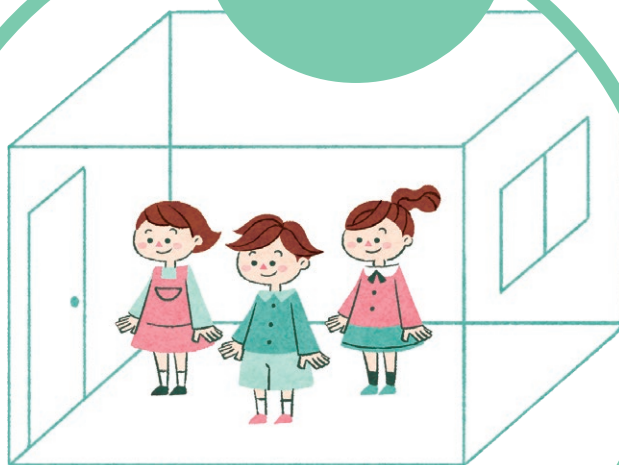
ひと きょり ちか
人との距離が近い

ひと
人がたくさんいるところ



みっしゅう

みっぺい



でぐち まど
出口や窓があいていない

新型コロナワクチンの接種に際して

新型コロナワクチン接種に対する考え方

日本小児科学会は、「2025/26シーズンの小児への新型コロナワクチン接種に対する考え方」として、以下のとおり公表しています（<https://www.jpeds.or.jp/society-activities/post-156956.html>, 2026年7月確認）。

日本小児科学会は重症化リスクが高い基礎疾患*のある児に関しては、新型コロナワクチン接種（初回シリーズおよび適切な時期の追加接種）を推奨します。また、生後6か月～17歳の健康な小児に関しては、COVID-19による疾病負荷や現在の諸外国の方針などを鑑みて「接種が望ましい」から「保護者の希望があり、かかりつけ医との相談に基づいて接種を行うことができる」に変更しました。

* 基礎疾患については日本小児科学会から提示されている「新型コロナワクチン接種に関する、小児の基礎疾患の考え方および接種にあたり考慮すべき小児の基礎疾患等」をご参照ください。

お子さまに基礎疾患やアレルギーがあるなど、本ワクチン接種に関して疑問や不安がある時は、かかりつけ医やワクチン接種医に納得がいくまで質問してください。また、本ワクチンと他の定期接種のワクチンとの接種間隔や同時接種などについても、あわせてご相談ください。

新型コロナウイルスは変異を繰り返しており、それに伴い重症化率や新型コロナワクチンの予防効果などにも変化が生じています。乳幼児および小児における最新情報は、厚生労働省のウェブサイト「新型コロナワクチンについて」

（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html）をご確認ください。

医薬品副作用被害救済制度について

予防接種は感染症を予防するために重要なものですが、健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。

極めて稀ではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。生後6ヵ月～11歳のお子さまへの接種は任意接種となります。本ワクチンの接種によって健康被害が生じた場合、医薬品医療機器総合機構（PMDA）による医薬品副作用被害救済制度の対象となります*。申請に必要な手続きなどについては、医薬品医療機器総合機構（PMDA）にご相談ください。

* 2024年3月31日までの特例臨時接種枠で接種した方に健康被害が生じた場合は、引き続き国による予防接種健康被害救済制度が適用となります。お住まいの各自治体（市町村）にご相談ください。

【予防接種の副反応について】

ワクチン接種によって起こる副作用を「副反応」といいます。副反応には、ワクチンを接種した後に起こる発熱、接種部位の発赤・腫脹（はれ）などの比較的よく見られる軽い副反応や、極めて稀に起こる脳炎や神経障害などの健康被害と考えられる副反応があります。しかし、そのワクチンを接種した後に起こった症状は、ワクチンの接種が原因ではなく、偶然、ワクチンの接種と同時期にかかった感染症などが原因であることがあります。

医薬品副作用被害救済制度ではワクチンの接種による健康被害であったかどうかを個別に審査し、ワクチンの接種による健康被害と認められた場合に給付をします。

医薬品副作用被害救済制度の
詳しい情報については、
PMDAのウェブサイトをご覧ください。



本ワクチンの接種に際して

生後6ヵ月～11歳のお子さまへの接種は任意接種となります。

本ワクチン接種のスケジュール

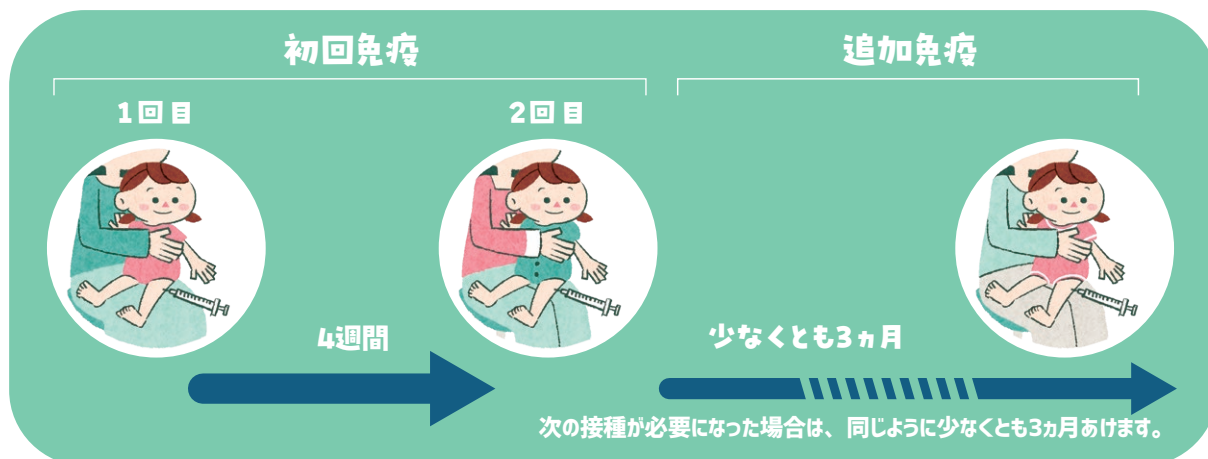
<5歳以上11歳以下のお子さま>

- ・ 前回の新型コロナワクチンの接種から少なくとも3ヵ月経過した後に接種を受けることができます。
- ・ はじめて新型コロナワクチンを接種するお子さまは、本ワクチンの1回目の接種後、およそ4週間の間隔で2回目の接種を受けることができます。



<生後6ヵ月～4歳のお子さま>

- 初回免疫： はじめて新型コロナワクチンを接種するお子さまは、本ワクチンの1回目の接種後、4週間の間隔で2回目の接種を受けてください。
 - ・ 1回目に本ワクチンを接種した場合は、原則として2回目も本ワクチンの接種を受けてください。
 - ・ 1回目と2回目を同時に予約する、カレンダーで接種スケジュールを管理するなどをおすすめします。
 - ・ 1回目の接種から4週間を超えた場合には、できる限り速やかに2回目の接種を受けてください。
- 追加免疫： 前回の新型コロナワクチンの接種から少なくとも3ヵ月経過した後に接種を受けることができます。



本ワクチンの接種が受けられないお子さま、 接種にあたって注意が必要となるお子さまについて

本ワクチンの接種が受けられないお子さま、接種にあたって注意が必要となるお子さまについては、下記をご確認ください。該当する項目がある場合、あるいは該当する可能性があるが判断できない場合は、必ず接種前の診察時に担当医にお伝えください。

◎本ワクチンを接種できないお子さま

- ☐明らかに発熱（通常37.5℃以上）している方
- ☐重篤な急性疾患にかかっている方
- ☐過去に本ワクチンを接種した時にショック、アナフィラキシーがあらわれた方
- ☐過去に本ワクチンに含まれている成分で重い過敏症*のあった方

*アナフィラキシー、全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、息苦しさ、血圧低下などのアナフィラキシーを疑わせる複数の症状

- ☐上記以外に医師が予防接種を行うことが不適当な状態にあると判断した方

◎本ワクチンの接種に注意が必要なお子さま

- ☐血小板減少症や凝固障害のある方、または抗凝固療法を受けている方
- ☐過去に免疫に異常があると診断されたことがある方や両親や兄弟に先天性免疫不全症の方がいる方
- ☐心臓や血管、腎臓、肝臓、血液の病気や発育の障害などの基礎疾患のある方
- ☐今までに、予防接種を受けて2日以内に発熱があった方や全身性の発疹などアレルギーが疑われる症状が出たことがある方
- ☐過去に痙攣（けいれん）を起こしたことがある方
- ☐本ワクチンの成分に対してアレルギーを起こすおそれがある方
- ☐腎機能障害のある方
- ☐肝機能障害のある方

◎本ワクチンの接種対象外のお子さま

- ☐ 生後6ヵ月未満の方
- ☐ 12歳以上の方

上記以外にも接種前に注意していただきたいことがあります。必ず16ページをご覧ください。

本ワクチン接種への保護者の同意について

お子さまの本ワクチン接種に際しては、保護者の方の同意・立ち会いが必要です。

予診票に必要事項を記入のうえ、本人（代筆者）記入欄に保護者の方のご署名をお願い申し上げます。

小児の予防接種記録は母子健康手帳で管理しているため、接種の際には母子健康手帳をご持参ください。

立ち会いに際してのお願い

お子さまの不安や緊張が和らぐよう、適宜声かけをしていただいたり、お子さまが注射針を見ないようにするなど、ご協力をお願い申し上げます。

本ワクチンを接種する際に注意すること

本ワクチンを安全に接種していただくために重要な項目です。

◎お子さまが以下に該当する場合、必ず接種前に医師に申し出てください。

- ☐ 14～15ページをみて、本ワクチンの「接種できないお子さま」「接種に注意が必要なお子さま」「接種対象外のお子さま」に該当する
- ☐ 医薬品でアレルギー反応の経験がある
- ☐ 食物アレルギーがある
- ☐ アレルギー疾患がある
- ☐ 予防接種に緊張したり注射針や痛みに対して不安がある
- ☐ ワクチン接種について何らかの不安がある

◎原則、体調が良い時にワクチン接種を受けましょう。

お子さまの体調がいつもと違うと感じた場合は、必ず接種前に医師に申し出てください。接種後に副反応があらわれる可能性を考慮して、接種当日や翌日の予定を立てることをおすすめします。

本ワクチン接種後にあらわれるかもしれない副反応

本ワクチン接種直後～30分以内にあらわれるかもしれない副反応

□ ショック、アナフィラキシー

接種直後～通常30分以内に起こる重いアレルギー反応です。本ワクチン接種後にもあらわれたとの報告があるため、十分ご注意ください。

以下のような症状があらわれていないか、お子さまの様子を観察し、気になることがあった場合、あるいはお子さまから症状の訴えがあった場合は、ただちに、接種医療機関の医師、看護師に伝えて診察を受けてください。

主な症状

- 全身：冷汗が出る、ふらつき
- 顔面：顔面蒼白（そうはく）
- 胸部：動悸（どうき）、息苦しさ
- 皮膚：全身のかゆみ、じんま疹
- 頭部：めまい、意識の消失
- 口や喉：喉のかゆみ
- 手や足：手足が冷たくなる

□ 血管迷走神経反射

ワクチン接種に対する緊張や痛みなどをきっかけに誰でも起こりうる体の反応です。通常、横になって休めば自然に回復します。

以前に採血やワクチン接種などの時に気分が悪くなったお子さまは特にご注意ください。以下のような症状があらわれていないか、お子さまの様子を観察し、症状がみられた時にはあわてずに頭を打たないように体を支えて、お子さまを横にして休ませてください。

主な症状

- 冷汗をかく
- 落ち着きがなくなる
- 顔色が悪くなる
- 意識が朦朧（もうろう）とする、意識がなくなる
- ムカムカする
- 寒気がする
- 話しかけても聞こえにくくなる

これらの副反応は接種後30分以上経過した後にも起こることがあります。

お待ちいただいた後でも上記のような症状や、いつもと違う体調の変化や異常を感じた場合は、速やかに接種医療機関の医師や看護師、あるいはかかりつけ医にご連絡ください。

本ワクチン接種日以降にあらわれるかもしれない副反応

□ 心筋炎、心膜炎

本ワクチンの接種後に心筋炎や心膜炎があらわれることがあります。

お子さまに以下のような症状があらわれた場合は、心筋炎や心膜炎が疑われますので、速やかに医師の診察を受け、本ワクチンを接種したことを伝えてください。

主な症状

- 胸の痛み
- むくみ
- 浅くて速い呼吸
- 動悸（どうき）
- 息切れ

□ 注射部位症状：注射した場所の痛み・腫れ（硬さ）・発赤・紅斑、注射した同じ腕側のリンパ節（わきの下あたり）の痛み・圧痛・腫れ

2回目の接種後は1回目の接種後よりも重めの症状が多くなる傾向があります。3回目以降の接種では2回目の接種時と同程度の症状がみられます。これらの症状は多くの場合、接種後1～2日以内にあらわれますが、接種後7日目以降に認められることもあります。

□ 全身症状

2回目の接種後は1回目の接種後よりも重めの症状が多くなる傾向があります。3回目以降の接種では2回目の接種時と同程度の症状がみられます。これらの症状は多くの場合、接種後1～2日以内にあらわれますが、接種後7日目以降に認められることもあります。

全身症状の多くは、1～3日で消失しますが、高熱や痙攣（けいれん）などの異常な症状があらわれた場合は、速やかに医師の診察を受けてください。

主な症状

- 発熱
- 筋肉痛
- 疲労
- 悪寒
- 頭痛
- 関節痛
- 吐き気・嘔吐

生後6ヵ月～5歳のお子さまに起こるかもしれない体の症状 (接種を受けた方の5%以上に起こったもの)

生後6ヵ月～5歳の乳幼児を対象とした臨床試験では、スパイクバックス筋注（1価：起源株）またはスパイクバックス筋注（2価）の接種を受けた後、6歳以上の方にみられる症状に加えて、次のような症状が出ると報告されています。

症状

- イライラ・泣き
- 眠気
- 食欲減退

これらの症状は、接種後2日以内にあらわれ、2～3日続きます。

これら以外の症状が副反応として出る可能性があります。

本ワクチンの接種後、特に数日間は、お子さまの健康や体調の変化に注意し、普段と変わったことがあった場合は、医師に相談してください。

※ 万が一、本ワクチンの接種によって健康被害が生じた場合には、2024年3月31日までの特例臨時接種枠での接種では国による予防接種健康被害救済制度、任意接種では医薬品医療機器総合機構（PMDA）による医薬品副作用被害救済制度があります。それぞれお住まいの各自治体（市町村）、PMDAにご相談ください。

本ワクチン接種後に気をつけること

本ワクチン接種後の過ごし方

- ☐ 本ワクチン接種後は、前のページ（17～19ページ）に書いてあるような副反応があらわれていないか、ご注意ください。高熱や痙攣（けいれん）などの異常な症状があらわれた場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ☐ 注射した部分は清潔に保つようにしてください。
- ☐ 接種当日に入浴することに特別な問題はありません。注射した部位を強くこすらないようにしてください。ただし、接種後に体調が悪い時は、入浴を控えることも検討してください。
- ☐ 接種当日の激しい運動は控えさせてください。

感染予防対策継続のお願い

本ワクチンによる他の人への感染予防効果は評価されていません。本ワクチン接種後も状況に応じた基本的な感染予防対策（場面に応じた適切なマスクの着用、密集・密接・密閉の回避、換気、手洗いや咳エチケットなど）に取り組んでください。

Q1

ウイルスのタンパク質を作る基になる遺伝情報を体に投与すると、将来の身体への異変は心配ありませんか？

A1

本ワクチンの主成分であるmRNA（メッセンジャー-RNA）は、体内に入ってから数日間で分解されます。また、mRNAは人の遺伝情報（DNA）に組み込まれることもありません。mRNAの情報が長期に残ったり、遺伝子に影響を与えることはないと考えられています。

Q2

過去に他のワクチンや医薬品、食品、化粧品に対してアレルギー反応があったのですが、本ワクチンを接種しても問題ないですか？

A2

事前にかかりつけ医に相談するか、接種当日、予診票にできる限り詳しく記入し、医師に相談しましょう。アレルギーを起こしたことがあるものを事前書き出しておくことをおすすめします。

Q3

小児に対しても本ワクチンの効果はありますか？

A3

生後6か月～5歳の乳幼児を対象に実施したスパイクバックス筋注（1価：起源株）およびスパイクバックス筋注（2価）の臨床試験、6～11歳の小児を対象に実施したスパイクバックス筋注（1価：起源株）の臨床試験では、いずれもワクチン接種後に中和抗体価の上昇が確認されました。本ワクチンでも同様に免疫応答を誘発することが考えられます。最新情報は、厚生労働省のウェブサイト「新型コロナワクチンについて」(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html)をご確認ください。





Q4 ワクチンの副反応の心配はありますか？

A4

ワクチン接種によって、副反応が起きることがあります。気になる症状、いつもとちがう体調の変化が認められた場合には、速やかに医師などにご連絡ください。万が一、ワクチン接種によって健康被害が生じた場合には、医薬品医療機器総合機構（PMDA）による医薬品副作用被害救済制度がありますので（12ページを参照）、PMDAにご相談ください。

Q5 ワクチン接種時に必要なものはありますか？

A5

お子さまのワクチン接種では、原則、保護者の同伴が必要です。また、お子さまの各種ワクチン接種履歴は母子健康手帳で管理しているため、接種当日はできる限り、母子健康手帳をご持参ください。特に小さいお子さまは不安になったり怖がったりして接種を拒み、泣いたりすることが予想されます。気を紛らわすようなお気に入りのおもちゃや絵本などもご持参することをおすすめします。

Q6 新型コロナワクチンの接種を受ければ、感染予防対策はしなくてもいいですか？

A6

本ワクチンは新型コロナウイルス感染症の発症を予防するものです。新型コロナワクチンを受けた方は新型コロナウイルス感染症の発症を予防できると期待されていますが、他の人への感染をどの程度予防できるかはまだ分かっていません。本ワクチンを接種後も状況に応じた基本的な感染予防対策（場面に応じた適切なマスクの着用、密集・密接・密閉の回避、換気、手洗いや咳エチケットなど）に取り組んでください。



Q7 ワクチン接種を受ける前や受けた後に気をつけることは？

● ワクチン接種を受ける前

原則としてワクチン接種は体調が良い時に受けましょう。

予診票をよく読み、正しく記入してください。

体調に不安がある方、医薬品でアレルギー反応の経験のある方、食物アレルギーやアレルギー疾患のある方、予防接種に緊張したり注射針や痛みに対して不安がある方など、接種に際し何らかの不安がある方は接種前に必ず医師に相談してください。

● ワクチン接種を受けた後

稀にワクチン接種に対する緊張や痛みをきっかけに気を失う（失神する）ことがあります。

失神による転倒を防ぐためにも、接種後15～30分程度は体重を預けられる場所

（例：背もたれや肘掛けのある椅子で体重を預けて座るなど）で休みましょう。特に緊張や不安の強いお子さま、以前に採血やワクチン接種の時に気分が悪くなったことがあるお子さまは、事前に医師にご相談ください。また、ワクチン接種によりショックやアナフィラキシーなどの重いアレルギー反応が起きることがあります。他の医薬品でアレルギー反応の経験がある、食物アレルギーやアレルギー疾患のあるお子さまは接種に際して慎重な観察が必要です。接種医療機関内にいることですぐに対応できますので、医師に相談の上、しばらくの間は接種医療機関の施設内にいるようにしましょう。

接種後に心筋炎や心膜炎があらわれることがあります。これらが疑われる症状（胸の痛み、動悸（どうき）、むくみ、息苦しさ、息切れ、呼吸が荒い・速い）がみられた場合には速やかに医師の診察を受けてください。

A7





Q8

**新型コロナウイルスmRNAワクチン接種後に報告されている
ギラン・バレー症候群では、どのような症状が認められますか？
また、症状を認めた場合はどうすればいいですか？**

A8

ワクチン接種との因果関係は分かっていませんが、新型コロナウイルスmRNAワクチン接種後に、筋力が低下するなどのギラン・バレー症候群を発症した事例が報告されています。ワクチン接種後に、両手や両足に力が入らない、物がつかみづらい、手足の感覚がにぶくなった、顔の筋肉がまひする、食べ物が飲み込みにくい、呼吸が苦しいなどがみられた場合は、速やかに医師の診察を受け、本ワクチンを接種したことを伝えてください。

Q9

毛細血管漏出症候群の再燃について教えてください。

A9

海外において、本ワクチンを接種した後に、全身のむくみ、急激な体重増加、息切れ、息苦しさ、心拍数増加、ふらつき、めまいなど一度治まっていた毛細血管漏出症候群の症状がまたあらわれたという報告があります。



Q10 ワクチン接種後に熱がでました。 どのように対応したらいいですか？

ワクチン接種後の発熱に対しては、日本小児科学会より以下のような対応がすすめられています
(https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=379および
https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=454,
2026年7月確認)。

A10 ご不安な場合は、都道府県の相談窓口やかかりつけ医にご相談ください。

- 発熱に対しては、程度が軽い場合は、冷却などで様子を見てください
- 発熱の程度に応じて解熱薬を使用することもできます
※ ただし、小児には推奨されない解熱剤もありますので注意してください
- 水分摂取を促し、体温調節をこまめに行ってください

Q11 生後6ヵ月未満でも本ワクチンを接種できますか？

A11 本ワクチンの接種対象は**生後6ヵ月以上11歳以下**の方です。生後6ヵ月未満の方に対する有効性・安全性はまだ分かっていません。



Q12 小児や乳幼児で本ワクチンを接種する部位は変わりますか？

A12

1歳未満のお子さまは、太もも外側に接種します。1～2歳のお子さまは、太もも外側もしくは肩（三角筋）に接種します。3歳以上のお子さまは、肩（三角筋）に接種します。ただし、明らかに筋肉量が少ない場合などは、年齢に関係なく太もも外側に接種することもあります。

日本小児科学会．小児に対するワクチンの筋肉内接種法について（改訂第4版）2025年．

Q13 新型コロナワクチンと、他のワクチンを同時接種することはできますか？

A13

医師が特に必要と認めた場合に行うことができます。

